

12月25日（金）、南丹市、南丹市議会、南丹市教育委員会が主催となり、今回で3回目の「市長と語ろう、わたしたちのまちづくり」を南丹市議会議場で開催しました。

小学生は「コロナ禍をどう生きるか・何ができるか」、中学生は「人口減少や地域活性化」をテーマに、各学校の代表児童・生徒が意見発表を行いました。

「市長と語ろう私たちのまちづくり」を開催しました！



動画やイラストを使い、児童生徒が市長と意見を交わしました

主な提言内容

- ・挨拶の意識を高める
- ・学校行事のストリームでの配信
- ・コロナ禍にあっても人とのつながりをさらに作ってきたい
- ・地域のポイントカードの創設
- ・イベントや市の魅力のPR
- ・地域の活性化に向けた企業誘致

◆各幼稚園・小中学校における本年度の特色ある取り組み◆

園部 幼稚園



主体的な幼児の遊びから～節分遊び～

今年度は、幼児主体の行事のあり方について見直そうと取り組んできました。そこで、2月の節分の行事について5歳児に考えを聞いてみると、去年の経験から、「鬼が来たら怖いから隠れる場所がある」と自分たちが鬼から隠れる家づくりを始めました。先生が「小さい組さんはどう思うかな」と投げかけると、「小さい組も怖いと思うから、自分たちがやさしい鬼に扮して小さい組さんを守ってあげるのどう？」とアイデアを出し合い、計画を立てていきました。節分当日は、小さい組が喜んでくれる姿を見て満足そうな表情を見せていました。興味をもつ子どもたちはどんどんアイデアが溢れ、友達と一緒に試行錯誤していきます。この継続して遊んでいく中で発揮される主体性を大切に「面白い」を感じられる保育をすすめています。

園部 八木中央幼稚園



もうすぐかかし完成!!
～地域や保護者の皆様とのかかわりの中で～

幼児学園ではおもしろい！なぜだろう？もっとやってみよう！と子ども達が夢中になって遊ぶ体験を通してたくましく生きる力を育むよう教育を進めています。今年度、5歳児は自分の植木鉢にそれぞれが選んだ野菜を植えました。「せっかく植えた野菜が鳥たちに食べられては大変！」とかかし作りを思いついた5歳児でしたが、どうして作ったらよいかかわからず、地域の方に協力をお願いし、作り方を教えていただくことになりました。無事にかかしを完成させる事が出来て大喜びの5歳児でした。地域や保護者の方々から支えていただきながら、様々な人と触れ合う喜びを感じ、興味関心を広げ、豊かな体験を積み重ねていけるよう取り組みを進めています。

園部 小学校



3年生 総合「すがたをかえるワラ」探検隊

「校区が学習キャンパス」として、摩気・西本梅・園部地域の自然・歴史・施設・人材を積極的に活用した交流・体験学習に取り組んでいます。本年度は、「合鴨水稲同時作」「ミツバチ先生のお話」「しめ縄づくり」など、地域の方々とともに、児童が目を輝かせる学習を生み出すことができました。また、地域の方々から子ども達のことを知っていただく機会にもなりました。学校の中だけでなく、地域の中でもつながり合える関係づくりを目指し、次年度も『地域とともにある学校づくり』を進めていきます。

園部 第二小学校



地域の方に教わり収穫しました。様々な方と出会い、学べることも食タイムのよさです。(1年生いもほり)

「食」は、生きる上で欠かすことのできないものです。全ての児童が生涯にわたっておいしく楽しく食生活を送ることができ、健康な生活を送れるよう、本校では、地域の方々のご指導のもと、さつまいもや米作り体験をしたり、南丹市食生活改善推進委員のみなさんや栄養士さんの協力のもと、「弁当の日」の取り組みを行ったりしています。「育てる」「作る」「食べる」ことを通して考えるこれらの活動を「食タイム」と名付け、全学年が特色のある学習を進めています。

園部 八木西小学校



地域全体が学び舎に！大好き！八木西！

八木西小学校では、おもい作り、花いっぱい活動、お米づくり、しめ縄作り、竹細工のふくろう作りなど、地域の方々や学校運営協議会・PTAの方々といっしょに地域のよさを生かした学習に取り組んでいます。地域を学び舎に、「町好き、人好き、自然好き、八木西大好き」をキャッチフレーズに、地域に温かく包み込まれるような感覚を大切にしながら、地域道徳に視点をあてた「地域とともにある学校」づくりを進めています。

園部 八木東小学校



「ありがとう」の輪がどんどん広がっていきました。

本校は、人権教育を基盤としながら、一人一人のよさやがんばりを互いに認め合い、自己肯定感を高めることを大切にしています。今年度も児童発の素敵な「人権スローガン」のもと、12月中旬から2月初旬にかけて「人権月間」の取り組みを行い、児童会本部委員と各学年の人権リーダーが中心となって、積極的な取り組みを展開しました。「人権まとめ集会」では、各学年がリモートで取り組みの成果や自分たちの成長を発表し合い、人を大切にする心や温かな気持ちの輪が広がりました。

園部 殿田小学校



5・6年生への講演で、ウガンダの子どものリモート交流

殿田小学校では、多くの地域の方をゲストティーチャーとして招いて、教科等の内容を深めるだけでなく、キャリア教育や道徳科、故郷を愛する心の育成をめざす体験を主とした学びの場を多く取り入れています。特に高学年では、リモートで海外の同世代の子ども達と繋がる中で夢や目標を持つことの大切さを学んだり、地域の方と共にゴミ拾いをする中で環境問題とこれからの町づくりの方策を共有したりと、日吉を愛する地域の方々に支えられ、繋がりを深めています。

園部 胡麻郷小学校



運動会で心と体をほぐす「ごまっ子体操」に取り組む児童

本年度、胡麻郷小学校は「新しい伝統を創る」「本校に関わる全ての人々の絆をさらに深める」という大きな2つのねらいのもと『ごまっ子体操』を始めました。1学期には高学年が先に覚え、ペア学年である低学年に優しく教える心温まる姿が見られました。運動会の開会式では多くの保護者・地域の方々に笑顔で体操するごまっ子の姿を見ていただきました。今では体育科の授業だけでなく、学年PTAの準備体操としても取り組まれ、「心と体をほぐす親しみやすい体操」として広がってきています。来年度の運動会では地域・保護者の皆様と全校児童が一つになり、笑顔で「ごまっ子体操」ができることを願っています。

美山小学校



ゲストティーチャーによるお話

5年生では、美山の特産品について調べ、知井地区のきびもち、鶴ヶ岡地区の栃もち、平屋地区のブルーベリーにスポットを当てました。それぞれからゲストティーチャーをお招きして、お話をうかがいました。
お話を聞いて、いずれも地域の方が知恵を出し合って努力や工夫をして生産されていることがわかりました。また生産者や関わる人たちの高齢化や人手不足が問題とこのことを知り、何かできることはないかと考えるきっかけになりました。

園部中学校

地域とともにある中学校を目指して



今年度の地域防災学習についての熟議の様子

園部中学校では、地域とともにある自己の生き方について考える基盤を養うとともに、生徒に包み込まれているという感覚を持たせるため、地域防災学習（1年生）、勤労体験学習（2年生）、平和学習（3年生）の取り組みを往とし、全校をあげて『地域とともにある私たち』の取り組みを地域と協働して進めています。

取り組みは、地域と学校が熟議を通して、目指す子ども像を共有し、生徒自身が地域の人の思いや熱意に触れ、感謝する気持ちを持ち、園部に住む自分の役割を意識し考えることのできる内容になるよう工夫して行っています。

八木中学校



正面玄関に設置したプランターと有志で参加した生徒と生徒会本部が、指導いただいた方を囲んで

生徒会活動の取り組みとして、花いっぱい運動を実施しました。全校から参加希望者を募り、寄せ植えをしました。プランターは玄関に設置し、春を待っています。是非、中学校へ見に来てください。
他にも、東日本大震災復興支援事業である、ひまわりの種プロジェクト、ペットボトルキャップ運動、中部医療センターへ応援メッセージを送る活動をしました。
八木中学校生徒会は、全校生徒一人一人が各取り組みの意義をしっかりと理解し、意識を高く持って活動できるように工夫しています。これからも様々な活動を通して、仲間との協力と思いやりの心、自主性を大切に頑張っていきます。

殿田中学校



ブロック集会「進路実現に向けて」

殿田中学校では、豊かな学校生活を創造するために、月に一度、水曜日の放課後を「特活の日」とし、生徒の主体的、実践的な活動に取り組んでいます。2月は「3年生の進路実現に向けて」のブロック集会でした。（ブロックは1年～3年までの異年齢の縦割り集団で、3つのブロックを構成しています。）集会では、3年生は進路実現に向けて頑張っていることや受験を前にして思うことを話し、受験に臨む決意表明をしました。1・2年生は進路実現に挑む3年生の姿や話から自分を見つめ直しました。また、将来の夢や進路希望の決め方、勉強の方法についての質問も出され、お互いが進路について考えを深める貴重な時間となりました。

美山中学校



アンビシャスタイム講演会「高校生に聞く」

本校には、地域の方々や先輩の講演を通して、将来への展望や今後の生き方について考える「アンビシャスタイム講演会」という時間があります。今年度は、コロナ禍で対面形式での実施が難しくリモート形式となりましたが、近隣の高校に通う先輩を招いた講演会「高校生に聞く」を行いました。高校生は「中学校で頑張っていたこと・高校で心がけていること・自分が成長できたきっかけ」等、自らの経験や学びを誠実に語ってくれ、年齢の近い先輩の現実味のあるアドバイスに中学生が感銘を受け共感できたことが、講演中の目の輝きや事後の感想に表れていました。中学生時の先輩を見習い、きちんと原稿を用意して話す高校生の姿に、「2年後は私？」と友達にささやく3年生。先輩から後輩へ確実にバトンが引き継がれています。

桜が丘中学校



桜が丘中学校の新たな伝統として、一步を刻んだ文化祭

今年度の桜が丘中学校の文化祭は、その名称を「淇陽・桜が丘合同文化祭」とし、淇陽学校との合同開催の形で行いました。
昨年度の文化祭同様、各教科や各学級での学習活動をまとめた「学習発表表」を中心に、そこに淇陽学校伝統の「淇心太鼓・作文朗読」の発表を交えた文化祭にすることが出来ました。
コロナ禍において、規模を縮小して行われた文化祭ではありましたが、本校における新たな文化祭の形を確立し、来年度以降につながる行事にすることが出来ました。

◆南丹市教育委員会の取り組みと事業展開について◆

・地域道徳について（学校教育課）

人のぬくもりを肌で感じ、支え合いの中で生活していることを実感することで、子どもたちは他者や地域の存在を実感し、道徳的実践意欲が向上していきます。

南丹市では、子どもたちの豊かな成長のために、全ての小中学校に導入されている学校運営協議会において「目指す子ども像」を共有しています。その姿の実現に向けて、道徳教育において、どのような内容を実施していくのかを熟議によって検討し、地域・家庭・学校が協働して実践していく「地域道徳」を推進しています。

本年度は、八木中学校ブロックを推進地域として、「考え議論する道徳」の授業を地域の方々をはじめ、多くの皆さまに公開しました。今後も引き続き実践を深めていきます。



八木中学校公開授業



八木西小学校運営協議会

・小学校のトイレ洋式化について

（教育総務課）

今回の洋式トイレへの改修は新型コロナウイルス感染症の感染症対策に有効とされており、児童が快適にトイレを利用してもらえるようになります。また、小学校ではトイレの洋式化の他にも、網戸の取り付けや特別教室のエアコン設置も行いました。



・一人一台タブレットを整備しました

（教育総務課）

今年度、文部科学省が推進する「GIGAスクール構想」を受け、一人一台タブレットの整備や、端末を使うための学校内環境整備を行いました。

学校の長期休業時の遠隔授業のツールとして、また学校での通常授業においても動画教材を幅広く使えるようになりました。
南丹市の子ども一人一人が、最適な学びを受けられるように、情報機器や施設の環境整備を引き続き進めていきます。



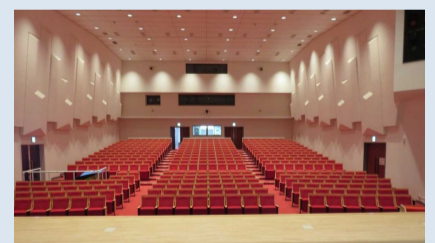
一人一台タブレットのiPad

・社会教育施設の充実とコロナ対策

（社会教育課）

本年度は、園部文化会館の大規模改修、また八木せきれい東放課後児童クラブやb & g なんたんの建設など、社会教育に関わる各施設の充実が図れた年でした。

一方で、園部海洋センターをはじめとした社会



園部文化会館大ホール

体育施設や八木市民センターや日吉生涯学習センターなどの生涯学習施設、また各放課後児童クラブなどの施設管理をする上で、新型コロナウイルス感染症拡大防止のためのガイドラインを策定し徹底した対策を図り、感染防止に努めた年でもありました。



八木せきれい東放課後児童クラブ